



インド福祉村協会 会報

1998.9.1
Vol.3

India Welfare Village Society News

インド福祉村病院落成式挙行

開院準備中

1998年3月27日

落成式・式辞

理事長 山本孝之(福祉村病院院長)

インド福祉村病院の落成式は主賓にクシナガラ地区の知事を迎えて盛大かつ友好的に挙行されました。招待客200名、日本側参列者40名、建設作業員と地元の人々や子供達を加えて総勢1500名以上の人々が集まり、立派な落成式となりました。

始めに日本式の除幕式、次いで主賓によるテープカット、そして大テント内にて式典が行われ、駐インド日本大使の祝辞。主賓の挨拶、招待客の挨拶が次々と披露され、最後に日本側の御礼の言葉と記念品贈呈が行われました。翌日は建設作業員の慰労会が催されました。



(除幕式)



インド福祉村病院の落成式にあたり、ご多忙中にもかかわらずご出席いただいた皆様、心より御礼申し上げます。この日を迎えられたのもひとえに皆様のご協力とご支援の賜物と深く感謝いたします。

病院の建築が無事にかつ早期に完成したのは工事に関係された、インドの方々のご努力のおかげだと思えます。建物を造るのも大変ですが、それに生命を入れるのは、なお大変なことです。今後は一日も早く医療活動を開始すべく努力し、少しでも病める人々のお役に立ちたいと願っております。診療を始めることによって初めて私達の目的の第一歩が踏み出されるのです。

今後、更なるご支援を賜りますようお願い申し上げます。本日は立派な落成式をありがとうございました。

祝辞

平林 弘

(駐インド日本国大使)

感謝状

日本のインド福祉村協会の資金援助によるインドアーナンダミッションの「アーナンダ病院」の完成をお喜び申し上げます。このプロジェクトは両国民の間レベルの親善と、友好を示す素晴らしい例です。この機会に接し、心よりお祝いを申し上げる次第です。クシナガラはウツタルプラデッシュ州のDEORIA地区に位置し、仏教徒の最も大事な聖地の一つであります。日本からも沢山の参拝者が訪れるところですので、この計画はこの農村を訪ね、医療状況の必要性を感じたある日本人の旅行者によって発願されたものです。

(病院全景)

そして、本日その願いがかなったわけです。病院の建設計画が成功裡に成し遂げられたことはアーナンダミッション、そしてインド福祉村協会の努力の賜物に他なりません。私は「アーナンダ病院」がたくさんの人々に医療奉仕ができ、日印両国の友好親善の強い絆の象徴として活動されることを信じております。成功をお祈りいたします。

(原文英語)

落成式報告

常務理事

柴田昌雄

(愛知学院大学教授)

3月27日11時より、クシナガラのインド福祉村病院に於いて、盛大にかつ、友好裡に落成式が挙行されました。3月とは云え式場内はかなりの暑さでした。来賓として地元(日本では県に相当する地域の知事をはじめ多数の方々、日本人約40名を含め、参加者は実に、1500名に及びました。

落成式を無事に終えることができましたのも、日印両国の有縁の方々のご支援があつてこそと心から御礼申し上げます。式典の内容や状況については他の参加者の方々から種々述べられていますので、私は落成式を通じて、心に残った点を記すことにします。

第一は地元知事の Shri. Shashit氏が主賓として臨席いただいたことです。病院の今後の運営上、是非とも地元行政の協力が不可欠であると思われるからであります。第二はこれまで医療面からご助言いただいていたラクノーの SCRCI 大学の Mithal 先生が遠路はるばる出席して下さったことです。



(落成式・式典)

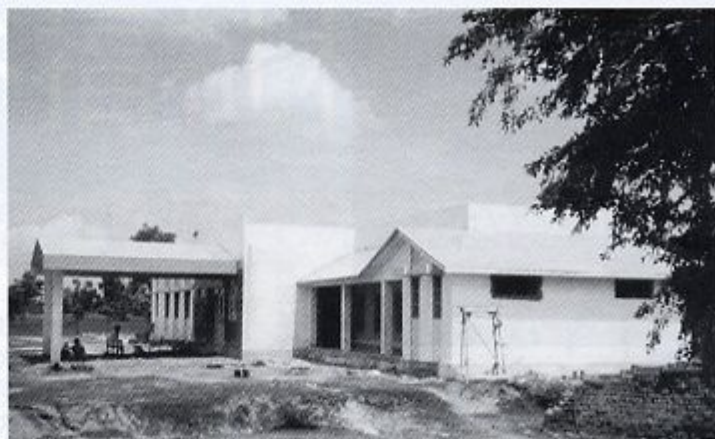


先生には病院の医師などの選定を委任しており、今後とも医療面でのご支援をお願いしています。第三にはインドとしては大変に短い工期にここまで建設を進めて下さった工事責任者の方々、工事関係者に心から御礼申し上げます。この事実は私どもの従来持っていた認識を変えるものであります。第四には式典が本日に日印両者の真の友好のもとに行われ、地元の方々の期待の大きさを痛感しました。最後に遠くより落成式に参列していただいた方々に心から御礼申し上げますと共に、今後とも今層のご支援をお願いする次第です。9月初旬の診療開始を目標に目下努力していることを申し上げます。

祝辞

熊野秀一

(国際協力事業団駐インド所長)



(診療棟)

日本のインド福祉村協会とインドのアーナンダミッションが共にDEORIA地区の人々の福祉のためにアーナンダ病院を造られたと理解しております。両者の夢がまさに実現したのです。1998年3月27日の今日、こうして落成式を迎えることは、並大抵のことではなかったと思われまふ。ここまで来た、この計画を始めた全ての関係者にお祝いを述べさせていただきます。

昨年1997年1月17日地鎮祭に参加したことを鮮やかに思い出します。それは平和を愛する人々の友好であり、

善意の表現であり、より発展した国々が恵まれない人々を助けるための協力のひとつの例であると考えます。日本のボランティアの方々には病院建設のために、貴重な資金援助活動を行われてこられたと思います。病院経営は有能な医師とそのスタッフのチームワークであると強く思います。

日本の友好あふれる人達が草の根レベルのプロジェクトを履行し友好関係を広げられることを願ひ、将来両国の強い友好関係とならんことを願っています。このプロジェクトに携わる皆様にお祝いを述べさせていただきます。ご成功を祈ると共に世界中が共により良くなることを祈ります。(原文英語)

落成式に参加して

参加者の感想

南忠美子(ニューデリー連絡員)

「何もない野原に建つ白亜の病院」多くの方の長い間の善意と努力が花咲いたことに驚きと共に心よりの御祝いを申し上げます。インドの実情を知ってみると、スタートしたこれからの前途多難が思いやられますが、皆様の力でさらに大きな実を結んでいくことと信じています。デリーでお役にたてることがありましたら、いつでもご連絡下さい。

連山清美(小学校教師)

落成式おめでとうございます。関係者のご尽力は並々ならぬものがあつたと思います。仏跡地のクシナガラでは古代インド文化の水準の高さに感心しました。

今回、私の学校の子供達から募集した鉛筆や絵を持参しました。代わりに、インドの子供達の絵を沢山いただきました。貴重な交流ができて嬉しく思います。日本の子供にインドの子供について語つてやります。今後の病院の運営は大変だと思ひますが、頑張つて下さい。祈つております。

永井迪子(大学職員)

農村地帯は思つてい以上に子供達は素直で、おとなしかった。部落の生活は貧しく、牛糞も一緒で汚ないという感覚がなく、衛生意識が低いと思ひました。ニューデリーとは大きな差がありました。病院はこれからが大変ですね。



(式典ゲート)



(落成式・地元の人々)

林 満(元小学校校長)

落成式はなかなか良かった。素晴らしいと感激しました。子供達もかわいいですねえ。沢山の人々には驚きました。これからの病院運営が大変ですね。頑張つて下さい。私も援助したいと思ひます。

加藤裕子(日本レディス協会代表)

日本とインドを結ぶ皆さんの協力体制がすばらしい。友好的な落成式を迎えられたと思ひます。感激しました。神谷信明(短大教授)

医師が子供を診察するのは大変だなあと感じた。ボランティア心のある医師や看護婦が必要でしょう。現実のインドをみてみると、福祉施設とか健康センターは無理でしょう。それ以前の問題を解決する必要がありそうです。

落成式に参加して

参加者の感想

大久保政孝(僧侶)

日本戦後の状態とは国民性も違うし、五千年の歴史があり、相当違うと感じました。現在のインドが不幸な状態とは違うと思う。

青池京子(主婦)

初めてのインドですべてがびっくりでした。子供達の姿を見ていると可哀想に思う。これほどの状態とは思わなかった。人間の基本的な力が子供にもでていと思う。

安藤曠子(主婦)

落成式がすくく立派に出来て、親しみを感じ、感激しました。インドの人達との友好が嬉しかった。部落の子供達の目が輝いていた。

治田裕臣(大学生)

暑い落成式でした。病院は大変きれいで畑の中に白い建物があり、とても良い感じでした。

起工式に

比べて人も

多く立派な

式典だと思

いました。

沢山の人々の

協力で建

ったのだと

林優香(大学生)

インドの人々と日本人が違和感なく溶けあっている、日本でやっているような式典でした。初めてのインド訪問で昔の日本の生活を感じました。今後の私の目的に生かしたい。

島田洋季(大学生)

沢山の子供が集まってくる状況が戦後の日本みたいで、初めていろんな体験ができました。落成式に来て本当に良かった。

吉田晃(僧侶)

今回の式典に参加して私たちが何かをするというよりも村の人達から多くの事を与えていただきました。それは普段の生活ですべてでしまったり、忘れてしまったりしたような、人間が生きていく上で、ごく当たり前の人と人とのふれあい、習慣です。病院ができて多くの人々に利用していただく日が大変待ち遠しいです。

吉田真良(高校生)

式典で出逢った子供達の笑顔はとても素晴らしい。日本では見られない笑顔でした。ごみごみした都会より、のどかな村の人々の方が心がきれいだからでしょう。今回できた病院をたくさんの方が利用し、助かることを願ひ、またその素敵な笑顔がなくなるならいいことも願っております。

藤田重矢子(看護婦)

落成式の前に病院の近くの村へ訪問し、現地の様子を見て、聞くことができ大変勉強となりました。村の子供達は素直で明るくて、かわいかった。



(建築中)

募金のお願い!

私達はインドの人々に医療と生活改善を無料で行うことを目的としております。

インドは最近特にインフレ状態にあり建設費も高騰しております。

建設後も医療器具、備品、運営費に相当不足が見込まれます。

みなさんにお寄せいただいた善意はAPIC(国際協力推進協会)事業団を通じて

インド・アーナンダ協会に寄付され活動に使わせていただきます。

少しでもあなたの善意を分けて下さい。

寄付先/住友銀行 東京公務部 普901404(財)国際協力推進協会「ブダガヤ病院建設」口
問い合わせ先/インド福祉村協会事務局

■募金/別紙銀行振り替え用紙にて上記口座へご送金下さい。この募金については税法上の優遇措置がとられます。確定申告時にご提出下さい。

■賛助会員/1,000円(1口以上) ■維持会員/5,000円(年間1口以上) ■特別会員/100,000円(1口以上)

※郵便振込の場合、別紙郵便振込用紙にてご送金下さい。【口座番号】00830-2-65008 -インド福祉村協会-

インド福祉村協会(IWVS)

会長/飯島宗一(元名古屋大学学長) 理事長/山本孝之(福祉村病院院長)

常務理事/柴田昌雄(愛知学院大学教授) 理事/高木天昊(慈尊寺住職)

ほか

■発行者 インド福祉村協会(IWVS)

■発行人 大竹紘一 ■編集協力 文創社

■インド福祉村事務局

〒441-8124 愛知県豊橋市野依町山中19-12

TEL0532-48-1138 FAX0532-48-2365